

絵画

土岐頼熙公の絵 -中町・須賀神社- (平成22年12月号・53回)

沼田を最後に治めた土岐氏の沼田二代藩主頼熙の筆による絵が神社本殿内に残されている。大岩の岩場にとまる眼光の鋭い白タカは見応えがある。頼熙は詩歌、書、武芸に優れ「錦川」の雅号を持つ文化武人の藩主であった



金井さんと振り返る 歴代ぬまた歴史探訪

部門別5選

全185回の中から、金井さんが印象に残っている文化財などを分野・地区ごとに紹介します



祭礼

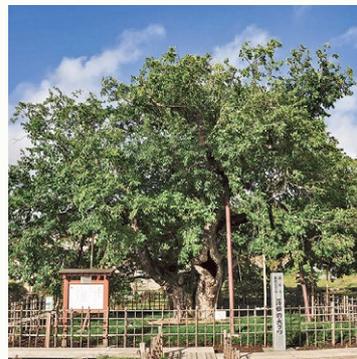
武尊神社のエーチョ祭り -利根町園原- (平成24年11月号・76回)



地域の繁栄を願う祭り「エーチョ(栄長)」が11月15日に武尊神社で行われる。餅を膳にのせて「今年もエーチョ、来年もエーチョ…」と唱えて回り、その後は未就学の男の子を「エーチョ、エーチョ」と胴上げし、成長に感謝する

名木

薄根の大クワと利根風穴 -石墨町- (平成21年6月号・35回)



推定樹齢1,500年、幹の周り約8m、高さ14mに達し、世界遺産登録を目指す県の絹産業遺産の1つで国指定の天然記念物。真田氏改易後、前橋藩の高須隼人が行った検地の標木になったといい、養蚕の神木としてもあがめられている

石像物

お子持ち様の爪書き不動 -屋形原町- (平成30年7月号・144回)

子持山山頂近くの巨大な岩窟にある浅い線で描いた「爪書き不動」。空海が彫ったといわれ、顔をやや左に向け、眉をつり上げる。頭の上に炎を備えた憤りの姿で、右手には宝剣、左手には縄を持ち、岩座に踏み張り立つ姿のようだ



歴史

高平の書院と五葉マツ -白沢町高平- (平成22年8月号・49回)

真田氏4代城主の信政が宿割のために設置し、その後は城主の鷹狩りや休憩場として使われたといわれる。開宿当時に描かれた略絵図が残されており、高平堰を利用した水車小屋が見られる。樹齢400年の五葉マツが南側にそびえ立つ



30歳で仕事を辞め、地元沼田へ。石像が持つ背景なども調べるようになり、地元の文化や民俗、信仰などについても見識を広げていきました。

2006年、市の広報紙で市内の歴史を紹介してほしいと依頼を受け、同年8月号から連載を開始。第1号となる栄町の「銀名水」は、人が住み始めた1500年代に湧き出たとされ、今では利根実業高校が所有する水田にも利用されているといえます。その後も、一般的には知られていないような歴史につながる文化遺産を中心に、沼田・白沢・利根地域と各方面にわたって紹介。金井さんは、できるだけ専門用語の使用は控えて、女性や子ども、歴史に詳しくない人でも分かりやすい執筆を心掛け「市民が『ここに行ってみよう』『今通ったところは広報紙で紹介されていた』と、楽しんでもらえれば」と笑顔を浮かべます。

現在は、市が毎年秋に開催する歴史講座の講師や利根歴史散歩の会利根沼田支部の会長を務め、各地を案内しています。人形を指で操る沼須人形芝居保存会あけぼの座の公演活動も行い、人形の頭は市重要民俗文化財に登録されています。金井さんは「沼田には他の観光地に負けない歴史がたくさんあります。地域にある身近な文化遺産に触れて奥深さを感じ、培われた歴史の価値を再認識してください」と呼び掛けます。